

RV34xルータのSLAAC設定

概要

ワイドエリアネットワーク(WAN)は、広いエリアをカバーするネットワークです。ユーザまたはユーザのネットワークは、インターネット接続を使用してクライアントをセットアップするさまざまな方法を提供するインターネットサービスプロバイダ(ISP)を介してインターネットに接続できます。これらの方法には、Dynamic Host Configuration Protocol(DHCP)、Static Internet Protocol(IP)、Point-to-Point Protocol over Ethernet(PPPoE)、Point-to-Point Tunneling Protocol(PPTP)、Layer 2 Tunneling Protocol(L2TP)、Bridge、およびStateless Address Auto-Configurationがあります(SLAAC)。

ネットワーク要件と設定に基づいてインターネット接続を正しく設定するには、ルータに正しいWAN設定を設定する必要があります。ルータで使用するWAN設定(ユーザ名、パスワード、IPアドレス、DNSなど)は、ISPから提供される必要があります。

このシナリオでは、ISPからの設定で、ルータがインターネットに接続するためにSLAAC for IPv6接続を使用する必要があります。この接続タイプは、IPv6ノードにIPアドレスを割り当てる非常に便利な方法です。IPv6ネットワーク内のさまざまなデバイスが、DHCPサーバを必要とせずに自動的にIPアドレスを取得してインターネットに接続できます。この機能により、ホストは自動的に自動設定を行うことができます。

目的

この記事では、RV34xルータのSLAAC設定の設定方法を説明します。

該当するデバイス

- RV340
- RV340W
- RV345
- RV345P

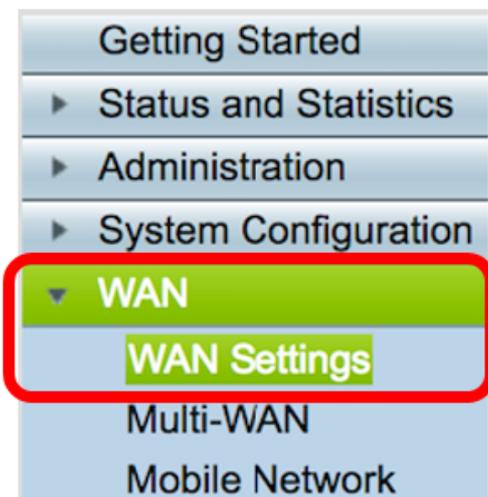
[Software Version]

- 1.0.01.17

SLAACの設定

注：ISPは接続にスタティックアドレスを提供します。

ステップ1：ルータのWebベースユーティリティにアクセスし、[WAN] > [WAN Settings]を選択します。



ステップ2:WANテーブルで、[Add]ボタンをクリックします。

WAN Table		
<input type="checkbox"/>	Name	IPv4 Address/Netmask
<input type="checkbox"/>	WAN1	124.6.177.116/29
<input type="checkbox"/>	WAN2	-

ステップ3 : 表示される[Add/Edit WAN Sub-interface]ウィンドウで、設定するWANインターフェイスをクリックします。

Add/Edit WAN Sub-interface

Interface WAN1 WAN2

Sub-Interface Name: WAN1

注 : この例では、WAN1が選択されています。これがデフォルト設定です。

ステップ4 : 表示されたフィールドにVLAN IDを入力します。この例では、1 が使用されます。

Interface	<input checked="" type="radio"/> WAN1	<input type="radio"/> WAN2
Sub-Interface Name:	WAN1.1	
VLAN ID:	<input type="text" value="1"/>	

注：[Sub-Interface Name]エリアは、入力されたWANとVLAN IDに基づいて自動的に更新されます。この例では、WAN1.1はWAN 1とVLAN 1を示しています。

ステップ5:[IPv6]タブをクリックします。

<input type="radio"/> IPv4	<input checked="" type="radio"/> IPv6	<input type="radio"/> Advanced
----------------------------	---------------------------------------	--------------------------------

ステップ6:[SLAAC]ラジオボタンをクリックして、[Connection Type]を選択します。

<input type="radio"/> IPv4	<input checked="" type="radio"/> IPv6	<input type="radio"/> Advanced
Connection Type:	<input checked="" type="radio"/> SLAAC	
	<input type="radio"/> DHCP	
	<input type="radio"/> Static IP	
	<input type="radio"/> PPPoE	

ステップ7:[SLAAC Settings (SLAACの設定)]で、表示されるフィールドにISPから提供されたスタティックDNS 1アドレスを入力します。

Connection Type: SLAAC
 DHCP
 Static IP
 PPPoE

SLAAC Settings

Static DNS 1:

DB8:0:CD30::123:4566

注：この例では、2001:DB8:0:CD30::123:4566が使用されます。

ステップ8: (オプション) フィールドにスタティックDNS 2アドレスを入力します。

SLAAC Settings

Static DNS 1:

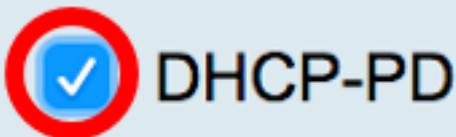
2001:DB8:0:CD30::123

Static DNS 2:

DB8:0:CD30::123:4555

注：この例では、2001:DB8:0:CD30::123:4555が使用されます。

ステップ9: (オプション) プレフィックス委任を有効にする場合、[DHCP-PD]チェックボックスをオンにします。これは、ネットワークアドレスプレフィックスを割り当て、ネットワークのパブリックでルーティング可能なアドレスの設定を自動化するために使用されます。



ステップ10: (オプション) フィールドにプレフィックス名を入力します。

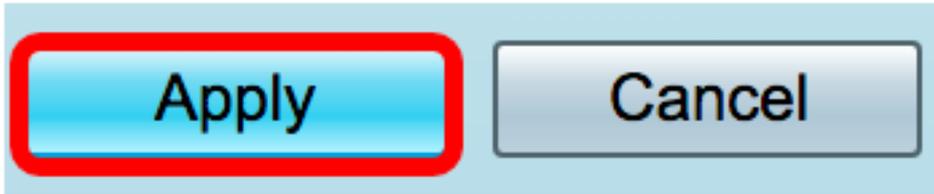
DHCP-PD

Prefix Name

DHCPv6

注：この例では、DHCPv6が使用されています。

ステップ11:[Apply]をクリックします。



これで、RV34xルータのWAN設定がSLAACに正常に設定されました。